

**赤磐商工会経営発達支援計画事業
第1回特別審議会会議結果**

日 時 平成29年9月27日(水) 14時～15時32分

場 所 赤磐商工会瀬戸支所2階会議室

開 会 金谷商工会長より挨拶

自己紹介 名簿順に自己紹介を行った。

委員長指名 金谷商工会長より松本直也委員を委員長に指名した。

審議会設置経緯及び

経営発達支援計画に基づく伴走型小規模事業者支援事業の概要

委員長が議長となり事務局に説明を求めた。事務局は資料により事業の説明及び進捗状況について説明を行った。

委員長が質疑を求めたところ以下の発言があった。

〈発言要旨〉

- ・実施のセミナー等の参加状況はどのような状況か。
⇒おおよそ定員を少し割る程度の参加状況である。
- ・セミナー等への参加に関して、小規模事業者が参加しにくい状況もあるようだが、何か工夫とかしているか。
⇒様々な周知活動を行っているが、チラシ等を配布しただけではなかなか参加してもらえない。巡回をしていく中で熱意を持って案内すれば参加者も増えてくると考えている。
- ・巡回していく中で課題やニーズも明らかになって、必要な支援策も見えてくると思うが、その辺りはどうして行くのか。
⇒今回は1年目として、定番の内容となっている。今後2年目3年目と、個社の売上向上のための課題解決のための支援に取り組んでいくことになる。
- ・経営発達計画と伴走型支援計画別のものか。
⇒経営発達支援計画に沿った取り組みとして、補助事業である伴走型支援計画を実行することである。
- ・創業セミナーとか塾とかのほかにも、事業者からの情報収

集に注力していけば創業等の情報も得ることができるので、そういう努力も行ってほしい。

- 本年度事業の目標に対して、現状はどのような状況か。
⇒経営計画の作成等一から作成していくと数は上がってこないが、融資・補助金申請等々支援していく中で簡易な計画も作成していくこととしている。
- 経営発達支援計画の肝の部分は、小規模事業者が経営計画を作成し、それに沿った計画経営をすることである。
- 次回審議会で事業評価をする際に、具体的な数値を示されると思うが、成約数とかすぐに答えの出ないものも多くあり、数値だけで判断できない部分をどう評価していくか。
⇒定量的なものとはそうでないものなどの判断材料を示していくこととなる。
- 職員の資質向上についても取り組む内容としているが、本事業を進めていく中で実体験としてレベルアップを図っていききたい。
- モラタメとはどのようなものか。
⇒モラタメサイトの登録者に無料で賞品を届けることで、賞品の感想等をブログやホームページで紹介してもらえうことで、口コミで賞品のPRができると共に、ネットでの購入につながっていく。登録者は80万人あり、今回赤磐の賞品への申し込みが4万人以上あった。大きな効果である。
- 今回販路開拓事業として様々な事業展開をしているが、今まではどのような取り組みをしていたか。
⇒合併当初に全国展開をしたがその後は積極的に取り組めていない。
- 経営発達計画の5カ年計画について、本審議会で目標数値の変更や事業内容の修正をすることはできるのか。
⇒審議会の審議経過を踏まえて修正していくことは可能である。
- 今回の伴走型事業に取り組む中で何か変わってきたことがあるか。
⇒直ちに成果を求めることは困難だが、引き続き事業を実施していくことで変わってくると考えている。
- 今後商談会実施の目的や対象事業所が変わっていくか。
⇒個社の売上を伸ばすことを目標としているので、同一の

事業者ばかりが対象ではない。

- ・ 今後一般の消費者向けの販路開拓だけでなく、様々な業種の販路開拓についても取り組むことになるのか。
⇒ 取り組んでいくことになると思う。

地域経済動向調査の中間報告

中間報告として(株)アルマ経営研究所の松本直也氏(委員長)より中間報告の概要について解説があった。

その他

次回開催予定を平成30年2月上旬に予定する。その際に事業の評価等について検討いただくこととなった

閉 会

商工会筆頭副会長である田中委員より閉会挨拶